

新しい教養教育科目「パサージュ」初年度の試みを振り返る

新入生の皆さんへ

奈良女子大学は、高度な専門教育と共に、教養教育を大切にしている大学です。

教養教育をさらに充実させるために、
2015年度から新しい授業「パサージュ」が始まります。
入学してすぐに、皆さんが自分で選択した少人数のセミナーで、
大学の研究や「大学の先生＝研究者」という不思議な人たちに出会ってもらうための授業です。

このシラバス（大学の授業計画）集を手引きに、
大学という不思議で魅力的な世界の扉をたたいてください。

このような呼びかけと共に、2015年度前期、新しい教養教育科目「パサージュ」が立ち上がり、およそ120名の新入生が18のゼミを履修しました。教育システム研究開発センターでは「高等教育研究プロジェクト」の一環として、この「パサージュ」試行の成果を検証し、その結果をフィードバックするFD活動を実施しています。1月13日に実施するFDのための全学フォーラムに先立ち、受講生と担当教員の声やアンケート結果をご報告します。

◆ 2015年度「パサージュ」開講科目一覧 ◆

1 A / 1 B	奈良を学ぶ、奈良で学ぶ	(内田忠賢) 金曜 4コマ
2 A / 2 B	夏目漱石『坊っちゃん』に見る百年前の日本語	(鈴木広光) 水曜 1コマ
3 A / 3 B	ことばと心——コミュニケーションを観察して見えてくるもの	(吉村あき子) 火曜 4コマ
4 A / 4 B	「私」はどのようにつくられてきたのか?——学校と教育を語り直す	(西村拓生) 金曜 2コマ
5 A / 5 B	微分積分学と線型代数学	(森藤紳哉) 水曜 2コマ
6 A / 6 B	アインシュタインの学問と思想	(上江洌達也) 月曜 2コマ
7 A	錬金術から現代化学の最先端に至る科学史と研究の実例	(中澤 隆) 火曜 3コマ
8 A / 8 B	遺伝子組換え技術とどう向き合うか?——実践者として? 受益者として? 反対者として?	(佐伯和彦) 水曜 1コマ
9 A	食べ物の生物学	(小倉裕範) 金曜 5コマ

10 B	行動・生体機能の性差と性ホルモン——脳機能と健康に影響を及ぼす性と性ホルモン	(鷹股 亮) 火曜 3 コマ
11 B	仏像の三次元計測と 3D プリンタ出力	(城 和貴) 集中
12 A	既存建築物の再生と活用——身近な生活環境を見直す	(瀬渡 章子) 火曜 4 コマ
13 A	「空間」はどのようにつくられてきたのか?	(長田 直之) 木曜 1 コマ
14 B	私のアサンプションとは?——現在から未来文化へのフィールドトリップ	(佐野 敏行) 金曜 3 コマ
15 A	化学のための数学 1——化学現象の理解の手助けとなる微分積分・級数	(吉村 倫一) 月曜 3 コマ
16 B	化学のための数学 2——化学結合の本質を照らし出す線形代数学	(太田 靖人) 火曜 3 コマ
17 B	電子の振る舞いから考える分子の形	(中島 隆行・高島 弘) 木曜 1 コマ
18 A	メタンから始まる有機物ワールドへのいざない	(三方 裕司・浦 康之) 木曜 1 コマ

〔受講生の声〕

文学部 1 回生 下山千尋

受講：1 A 「奈良で学ぶ、奈良を学ぶ」

私が受講した講座では、奈良公園や県庁、ならまちなど大学の外に出かけて授業を受けました。万葉集からお気に入りの歌を選び、飛火野で声に出して発表会をしたり、ならまちを歩いて歴史について考えてみたり。実際に目で見ることで、学びの材料は身の回りに転がっているのだということに気づき、普段何気なく通る道や店にも歴史が積もり、知れば知るほど奥が深い「奈良」という場所を味わうことができました。また、様々な出身地の学生がそれぞれ奈良を歩いてどのように思うのか聞くことができ、興味深く思いました。

理学部 1 回生 下村真唯

受講：6 A 「アインシュタインの学問と思想」

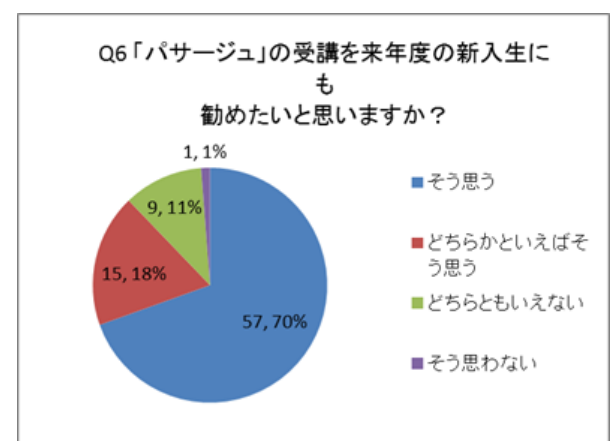
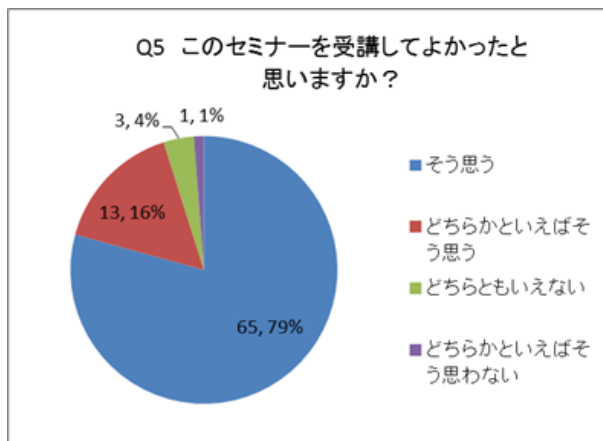
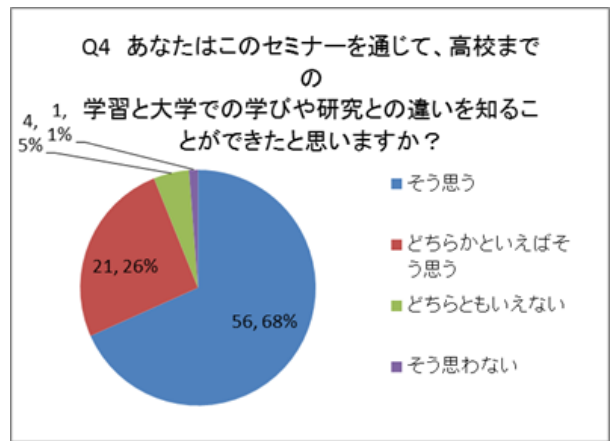
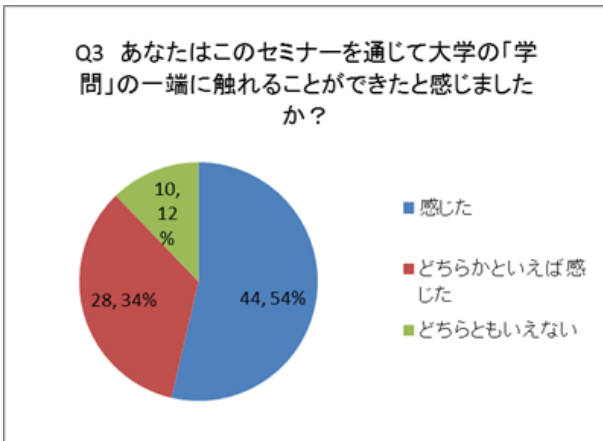
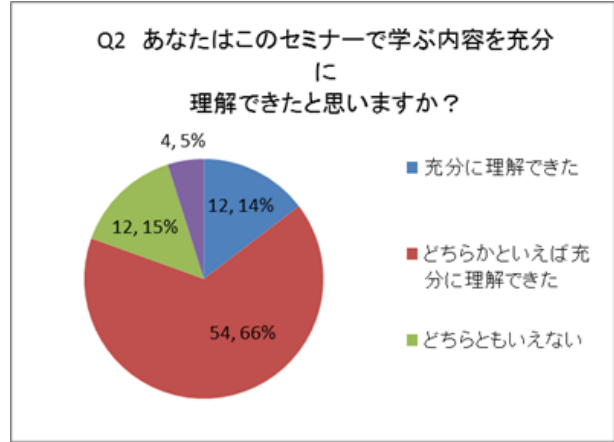
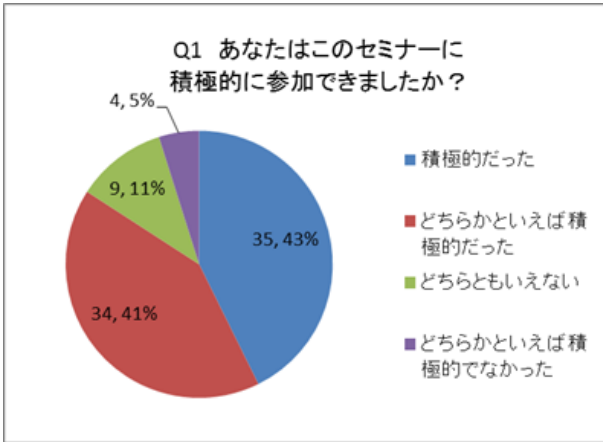
私が受けていた講座は、毎週二人が次回に調べてくることを決め、次の週に発表し、それに対して他の人が意見をしていくという形のものでした。私は、科学史に関する内容の講座を受けていたので、授業を受けるまで思っていた「結果は重要だけれどその歴史背景には意味がない」という考えが変わり、科学史自体にも興味を持てるようになりました。こうして、パサーージュの授業は、私に新たな学びの楽しさを教えてくれました。同じように新たな発見をする人が増えるためにも多くの人にパサーージュを受講していただきたいです。学部学科関係なく好きな授業を受けることができるので、それを通して学生も先生方も共に成長していけたらいいと思います。

生活環境学部 1 回生 桑原 湧

受講：10 B 「行動・生体機能の性差と性ホルモン」

私は、「一人の先生の専門分野についての研究を実際に体験できる」というパサーージュの授業内容を聞いたとき、とても興味を抱きました。授業を受けてみて、先生の研究室のコンピューターを使って、写真でとった鼠の染色された細胞の数を数える、という作業をしたのが新鮮でした。このような作業を通して科学的な理論が裏付けられているのだ、と実感しました。また、当初は先生の専門分野である「女性ホルモンの与える影響」についての知識はほぼ持っていませんでしたが、授業を受けるにつれて、知識が増えると同時に疑問点も増えました。この疑問が、今後の大学生活や将来にわたって学問をしていくうえでの自分自身の種になるのではないかと思います。

〔受講生アンケートの結果から〕



〔担当教員へのアンケート結果から〕

Q1. 「パサージュ」の趣旨（新生が大学の「学問」の一端に触れること）を実現するために、どのような工夫をされましたか？（自由記述からの抜粋）

- ・自分の専門分野の最も基本的な部分を経験してもらうにはどうしたらよいか考え、自分と異なる世界を理解する端的な経験方法として、自分の前提を見直す仕方が書いてある短い教材と、自分の前提となることを見直す機会を提供するための2日連続のフィールドワークを組み合わせることを考えた。
- ・問題や課題を設定するまでに、多くの無駄に思えるような作業や手続きを経なければならないことを体験してもらった。まだ難しいかもしれないが、専門性の高い論文を読み、そこから調査や考察を発展させる余地があることを実感してもらうように努めた。
- ・初回の冒頭に、学生が文献検索を行えるよう、学術情報センターのグループ学習室で文献検索の方法をセンターの職員の方に講義してもらった。電子黒板などを利用しながら、調べた内容を発表させた。
- ・前半の講義に基づき、興味を持ったテーマについて実際に自分でデータを探し、問題意識をもって観察分析するというリサーチの実践を行い、研究倫理の基礎を確認したうえで、その結果を報告する一方、聴者として建設的なコメントをすることも身に付けることを目指した。
- ・実務的・実践的なテーマをとりあげたので、「学問の一端に触れる」という構え方ではなく、現実の課題が何であるかを気付き、自ら考え、理解することに重点を置きました。身近な課題も「学」の対象であることを知ってもらうことになればよいという思いです。

Q2. 「奈良女子大学的教養」の「7つのアプローチ」の中で、授業で意識して使われたものはありますか？（複数回答可）



Q3. これをやったらうまくいった、という工夫があったら教えてください。(自由記述からの抜粋)

- とにかく受容的応答的な場の雰囲気をつくることを心がけた。具体的には、まず教員が学生それぞれの語りを受けとめ応答する姿勢や語り方の模範を示すようにした。
- 受講生はとても熱心。入学したばかりで新しいモノ・コトを吸収する意欲が旺盛と感じました。感受性も強いです。ですので、できるだけ授業後にミニレポートを課し、発表の場を設けて主体的な取り組みの機会を増やすことが問題意識をさらに高めることになると思い実践しました。
- 自分で選んだテーマ対象についての調査結果と分析を、パワーポイントを使って発表する形式をとったが、予想以上の成果が出た。少し見本を示すと、それをうまく吸収しイメージを膨らませて、自分のものにしていく過程が、大変印象的であった。奈良女の学生は、素直で真面目で優秀であることを再確認した。
- 数学が科学のどういったところに活かされているかを、具体例を示しながら話しているときは納得してくれていたように思える。
- 授業をとおして、「うまくいった」という感覚を持つとうとしたことがないので、わかりません。いかに良い授業ができるのかをめざして、余計なことを言わずに（指示しないで）自分たちで行動できる余裕をもたせるようにしたり、あまり放任すぎるような意識をもってもらってもこまるので、大枠だけは明確に伝えるようにしたつもりですが、実際、こうした工夫や配慮がうまくいったかどうかはわかりません。
- いきなり根幹に関わる部分を提示することが寧ろ目的への近道なのかな、と感じた。
- 現場に出向く、教室を飛び出す。教員は個性をできるだけ出す。学生の成果を積極的にほめる（批判しない）。

Q4. 「パサージュ」全般について、改善した方がよいと思われる点をご指摘ください。(自由記述から抜粋)

- 一人1科目ではなくて、複数の科目を自由に履修できるようにした方がよいと思います。そのために、授業数をもっと増やすなどの検討も必要かと思いますが、それはぜひやるべきと思います。
- 当初前期を前半・後半に分けて、両者同じ内容の授業をするということで始まったと思いますが、いろいろな授業がたくさんあるという状況も、学生にとって悪くないのではないかと思います。つまり、基本的にクォーターの一つのパサージュを多くの教員が提供する、というようなラインナップも魅力的かもしれないなと思いました。もちろん担当可能と考える教員の数にもよりますから、当初の前半後半同内容2つ開講というのが最も現実的なのかもしれません。
- 8コマで専門的内容について理解するのは困難ではないか。内容理解に至らなければ、雰囲気を味わっただけということにならないか。時間割等の関係を考慮した場合、授業時間外に集まって討論したりする機会を作るのは良いかも知れない。
- 7、8回の授業では、やはり短かすぎました。学生との「共感」が育ってきた所で終わってしまったので。
- 今年度は、たまたま担当授業は9名という、ちょうどよい人数だったのでうまくいったが、15名になると、だいぶ雰囲気が異なると思われる。全体として適度な受講者数を維持できればよいと思われる。

- ・それぞれの授業が多彩多様なので、一言でいえません。授業の一番最後に尋ねたことで、受講の動機は個人で異なることがわかりました。それで、すべての受講生を満足させることはできないことも理解しました。それでよいとしか言いようがないと考えます。それぞれの先生が鋭意、工夫することが常に改善していくことではないでしょうか。

全学フォーラム：奈良女子大学における教養教育再構築の道のり

「パサージュ」 初年度の取り組みを振り返って

日時：1月13日（水）13：30～15：00

（センター試験監督説明会の前です）

場所：人間文化研究科 大会議室（F棟5階）

内容：①受講生の声（ビデオ）、アンケート結果

②担当教員に訊く（インタビュー）：

鈴木広光（文学部）・上江列達也（理学部）
瀬渡章子（生活環境学部）

③パネルディスカッション：

「パサージュを根付かせ、育てるために」

鈴木広光・上江列達也・瀬渡章子
渡邊利雄（理学部）・駒谷昇一（生活環境学部）

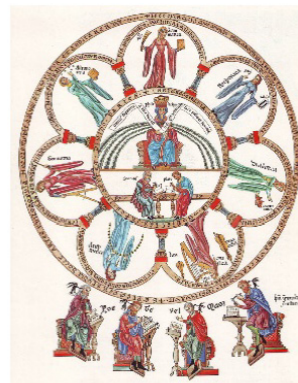
司会：西村拓生

（教育システム研究開発センター長・文学部）

新しい教養教育科目

パサージュ

シラバス集（付「教養コア科目」シラバス）



奈良女子大学教育計画室

2015年4月

今年度の「パサージュ」試行は、実施に関するいくつかの技術的な課題には直面したものの、担当の先生方のご尽力と受講生の積極的な参加により、まずは期待通りの成果をあげることができたと思われまます。すでに本学の教育改革の一つの象徴として、『ならじよ Today』第24号 <http://koto.nara-wu.ac.jp/news/today/today24.pdf> や国立大学協会の広報誌『国立大学』第39号 <http://www.janu.jp/report/koho/39gou.html> などでも取り上げられています。今回のフォーラムでは、この新しい科目の次年度以降の拡充に向け、受講生の声を聞き、担当教員の方々に経験を語っていただくことを通じて、「パサージュ」初年度の取り組みを振り返ります。

「パサージュ」は本学の教養教育改革の目玉として、今後多くの教員の方々に交代でご担当いただくことが想定されています。この機会に、それがどのような取り組みであるのかに具体的に触れていただき、できるだけ多くの方々に興味をもっていただければ幸いです。

■ 奈良女子大学教育システム研究開発センターニュースレター 38 ■

2016年1月7日発行

奈良女子大学教育システム研究開発センター

住所：〒630-8506 奈良市北魚屋東町

奈良女子大学コラボレーションセンター 204

TEL：0742-20-3352

Website： <http://www.nara-wu.ac.jp/crades/>

mail： crades@cc.nara-wu.ac.jp